

ファイン・ファイネット

酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす

# FINE FINET

ファイネット発行

2018

Vol.47

Summer

[FINET INFORMATION]

## 2018年度 ファイネットユーザー会を開催

[Corporate Social Responsibility]

ファイネットが支援する  
「国連WFP」の活動について



# 2018年度 ファイネットユーザー会を開催

5月22日(火)恒例のファイネットユーザー会を、東京・水天宮前のロイヤルパークホテルにて開催いたしました。当日は130社、280名と数多くのユーザー、関係団体ほかの皆様にご出席いただきました。

第1部は、弊社代表取締役社長・大谷邦夫の挨拶に始まり、続いて代表取締役専務・小原応孝が2017年度の業績報告、2018年度の事業方針等を説明しました。

特別講演は、株式会社日立製作所フェローの矢野和男様に「人工知能はビジネスをどう変えるか 人の幸せのための人工知能に向けて」と題してお話いただきました。矢野先生は、多目的AIの開発や、ハピネスを定量化するセンサの開発でも先導的な役割を果たしておられます。2014年に上梓された著書『データの見えざる手 ウエアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』は、2014年ビジネス書ベスト10にも選ばれています。

第2部の懇親会では、ユーザーを代表して三菱食品株式会社 執行役員 情報システム本部長の谷口道洋様に乾杯のご挨拶を頂戴しました。満員の会場ではユーザーの皆様との和やかな交歓の輪が広がり、最後に、日本酒類販売株式会社 執行役員 情報物流本部長 佐藤稔様から中締めのご挨拶を頂戴し、2018年度ユーザー会は盛会のうちに無事お開きとなりました。



三菱食品(株) 本部長  
谷口 道洋 様



日本酒類販売(株) 本部長  
佐藤 稔 様

## 大谷社長挨拶

平素より弊社社業に格別のご高配を賜り、改めまして心より御礼申し上げます。昨年度は、2017-2019 3か年計画のスタートの年でありました。データ件数はおおよそ1億件増え、27億8千万件を超えました。皆様方により多くご利用いただくことによってコストダウンを図り還元策に繋げていくという弊社創業以来の考え方にに基づき、また、ベンダー2社様の多大なご協力も頂戴し、昨年10月に年間ベースで約2億円程度に相当する料金値下げを実施いたしました。弊社は顧客満足度の向上、業界全体のコストダウンを目的としてこのビジネスモデルを今後も継続的に適切に実施してゆく所存でございます。今後とも皆様方のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

私ども酒類・加工食品業界は、国内外を取り巻く多岐にわたる課題に日々向き合っております。国内においては、人手不足の問題はもはや待ったなしの状況にあります。トラックドライバーの不足は物流費の高騰をもたらし、「モノがあっても運べない」状況が現実のものとなりつつあります。一方、来年10月に予定されている消費税率の引き上げと軽減税率制度の導入への対応も喫緊の課題であり、しっかりと準備をする必要があります。この3月に一般社団法人日本加工食品卸協会様が「消費税軽減税率対応 企業間取引の手引き」を取りまとめ、公開されました。製配販各層が課題と対応策を整理するひとつの指針となることが期待されております。本日は、日立製作所の矢野先生に人工知能についてお話をいただきますが、人工知能=AIを始めとした革新的な思考・技術がサプライチェーンの最適化、食の安心安全向上に大きな役割を果たす事が今後ますます期待されます。

弊社も引き続き、「業界共有の情報インフラ」を提供する企業としてその役割を果たし、業界全体の効率化、コスト削減に貢献してまいりたいと思っております。昨年3月に新たなデータ種として商流VANサービスに追加した「事前出荷情報(ASN)」は、納品時検品レスを実現することによって「車両待機時間の低減」「荷役作業やドライバーの作業環境改善」が期待されており、多数のユーザー様からお問い合わせをいただきました。多くのユーザー間でご利用いただくことによってより大きな効果を発揮することから、弊社としても粘り強く普及推進を図ってまいります。また、弊社が運営母体を務めております「酒類・加工食品業界標準化推進会議」は、今年で発足から16年目となります。参加される卸とメーカーがそれぞれの立場を超えて業界全体の標準化・効率化テーマを話し合うことができる貴重な場として続いてまいりました。昨年より参加企業から幹事を選出する形式となり、より活発な議論が交わされることを期待いたしております。この会議においては、業界各団体の皆様から展開される情報の共有を図っており、今後とも緊密に連携してまいりたいと思っております。また、業界商品データベースのリプレイスを来年に控えておられる株式会社ジャパン・インフォレックス様とも連携させていただきながら、「商品情報授受標準化会議PITS(ピッツ)」の事務局運営、「PITS標準フォーム」の普及活動にも引き続き取り組んでまいります。



代表取締役社長  
大谷 邦夫

## 2017年度各サービスの実績

商品流通VANサービス		資材VANサービス	
加入企業数	1927社(前年比100%)	加入企業数	207社(前年比100%)
データ件数	27.9億件(前年比104%)	データ件数	468万件(前年比111%)
接続数	11210接続(前年比102%)		
FAX枚数	845万枚(前年比100%)		
PDF通数	85万通(前年比107%)		

## 事業目標と2018年度取組みテーマ

### 1. 事業目標

ファイネットの『3つの指標』(「円滑なサービス運営」「顧客満足度向上」「業界貢献」)の強化を通じて、業界内での当社存在価値の向上、サービス継続提供の使命を果たす事を目指し、必要なリソースを適時適切に投入していく。

### 2. 2018年度取組みテーマ

#### 円滑なサービス運営

- ・サービス基盤リプレイスに向けた準備/移行を進める
- ・サービス品質、サービス機能、ユーザーサポート力のさらなる向上を推進する

#### 顧客満足度向上

- ・サービス利用ユーザー拡大を推進する
- ・新たなサービスの可能性を追求する

#### 業界貢献

- ・業界標準化を支援、推進する

#### PSTNマイグレーション

- ・NTTによる通信インフラ変更への対応策を固め実行する

## 主要テーマ別の取組み内容

### I. 円滑なサービス運営 ～サービス品質/機能向上～

1. 2019年3月以降、商品流通VANにおける「WebEDI」「PDF変換サービス」「付加価値処理/SDPコード管理」のサービス基盤を順次リプレイスします。合わせてPDF変換サービスについてDRに対応します。(詳細については改めてご案内いたします)
2. サービス継続性の観点から、ヘルプデスク拠点をこれまでの首都圏に加えて北陸地区を追加いたしました。また、緊急避難システムヘルプデスクの受付時間を平常時と同一時間に拡張いたしました(7:30～23:00)。
3. 各種Webサービスのマルチブラウザ対応を実現しました。(従来の「IE(11推奨)」に加え「Google Chrome」「Microsoft Edge」「Firefox」に対応)
4. 月次データの取得漏れ防止のため、未配信データの保管期間を14日→40日へ延長しました。また、送受信状況照会のデータ検索期間の上限を2週間→2ヶ月に改善いたします(2019年3月予定)。

## Ⅱ.顧客満足度向上 ～サービス普及を通じた顧客への貢献～

- 1.サービス利用ユーザー拡大に向けた施策を実施しています(WebEDI紹介サイト/デモサイトの開設、商品流通VANサービス料金値下げ(2017年10月)等)。窓口紹介やEDI説明会の支援等も随時行っています。
- 2.検品レス化によるトラックの待機時間削減に繋げる手段の一つになりうるものとして、事前出荷情報(ASN)の業界普及を推進しています。
- 3.資材VANサービス「納入指示、納入予定データ」に「単価」「金額」項目を追加。下請法対象取引の発注においても利用可能になりました。

## Ⅲ.業界貢献 ～収益範囲外での標準化推進活動～

- 1.酒類・加工食品業界における企業間情報交換の標準化による業界内各社の業務効率化・コスト削減を目指し、会員企業および関連団体等と連携して標準化の検討・策定および普及を推進しています。

当社事務局会議体

酒類・加工食品業界標準化推進会議、商品情報授受標準化会議(PITS)

- 2.(一社)日本加工食品卸協会「軽減税率対応システム専門部会」において「消費税軽減税率対応 企業間取引の手引き(第1版)」を策定→今後、日食協標準EDIフォーマット、標準書式の変更内容が決まり次第、商品流通VANサービスへの影響範囲を調査し、適宜対応いたします。

## Ⅳ.PSTNマイグレーション対応

- 1.2017年10月17日に東日本電信電話(株)および西日本電信電話(株)(以下、NTT東西)より以下の内容が公表されました。

■2024年1月より公衆電話交換網(PSTN)のIP網への移行が開始され、同時期にINSネット(デジタル通信モード)の提供が終了に

■INSネットの提供終了と同時に、INSネットワーク上のデータ通信(補完策)が提供開始(現在、2027年頃まで提供する方針)。これにより、2024年以降も引き続き「全銀TCP/IP手順」等の通信手段が利用可能となるものの、検証の結果、現行の通信と比較し処理遅延が発生することが確認されている

■IP網移行後の固定電話通話料は全国一律の料金体系(8.5円/3分)に

■NTT東西網と他通信事業者網の間のIP化については、2024年1月より前から実施される可能性があり、特に他通信事業者発・NTT東西着の通信は、早ければ2023年1月から処理遅延が発生する見込みです

- 2.弊社VANサービスでの影響については、Host接続で全銀協TCP/IP手順や全銀BSC手順、JCA手順\*をご利用の場合、早ければ2023年1月から処理遅延が発生し、2024年1月以降、通信が出来なくなる可能性があります。そのため、弊社では、インターネット手順への移行を2022年12月までに実施いただくことを推奨いたします。

※全銀協BSC手順及びJCA手順の提供については、2022年より前に終了する可能性があります。

- 3.インターネット手順への移行を支援する手続きサイト機能を2018年9月追加予定です。また、閉域ネットワークの専用回線を用いて、ユーザーと弊社VANを接続する「専用線接続サービス」を2019年5月より提供開始予定です。詳しくはファイネット営業推進部までお気軽にお問い合わせください。



講演

## 「人工知能はビジネスをどう変えるか 人の幸せのための人工知能に向けて」

株式会社日立製作所 フェロー  
矢野 和男 様

### topic.1 AIはなぜ必要なのか

- この100年で人類社会の生産性は50倍になった。それを支えてきたのが「標準化」と「横展開」。
- 今後我々に求められるのは、複雑・多様な未知の変化に向き合うことである。そのためには、とにかく「実験」してみる・そこから「学習」する、ということが重要。その際、AIとビッグデータの活用が有効である。
- 例えば、ロボットにブランコの漕ぎ方を学習させる。はじめはやみくもな動きだが、愚直に実験をくり返すことにより徐々に人間の動きに近づき、やがて人間を超えるようになる。
- 現代の急激な指数関数的変化に対応するには、「ルール指向」から「アウトカム（上位目的）指向」へ変わっていかなければならない。

### topic.2 AI化システムの具体事例

- 既存のWMS（倉庫管理システム）にAIを追加して動作させ、総作業時間の低減というアウトカムを実現。
- 店舗における顧客単価の向上というアウトカムに対し、AIが実施した施策（顧客単価の高感度スポットへの店員の重点配備）が専門家チームの施策を上回る成果をあげた。他にも、鉄道の運転電力の低減、融資貸し倒れ予測の精度向上など様々な分野で活用されている。
- 現在では、分野を問わない汎用性の高い「多目的AI」が進化しており、将来は、企業戦略の策定や都市設計等高度な課題解決に活用されると予測。

### topic.3 AIは人を幸せにするか

- 人類にとっての最大のアウトカム（ビッグアウトカム）は「幸福（ハピネス）」であり、これは大昔から変わっていない。
- 長期間蓄積した身体運動の記録を解析した結果、無意識な身体運動の多様性と幸福感（ハピネス）との間に明確な相関関係があることがわかった。これは個人レベルだけでなく組織レベルでもいえる。また、高いハピネスはその後に困難だが重要な活動につながるということがわかった。これにより、ハピネスの高い組織は生産性も高いことが明らかに。
- これらを活用し、スマートフォンで幸福感を計測するアプリを開発して試用したところ、アプリの活用度が高い組織ほど良好な業績をあげた。
- ハピネスを楽しく競い合って地球をよりよい場所にするという「ハピネスのワールドカップ」＝ハピネスプラネット大会を次回8月に計画。エントリーを募集中。



#### 結び

- AIの活用によって、市場、競合等の変化への適応力が抜本的に高まる。また、経営者や現場の経験や勘をAIによって増幅させることができる。
- AIは人を幸せにするためにある。人の幸福感や生産性を測り、最大化し、多様な強みを生かす社会を実現するのに役立つ。

## ファイネットが支援する「国連WFP」の活動について

ファイネットは企業としての社会的責任を果たすべく、飢餓の撲滅を使命に世界で食糧支援を行う国連WFPの活動に賛同し、その支援窓口である国際連合世界食糧計画WFP協会を支援すべく2012年10月に評議員として参画いたしました。

ファイネットは、飢餓が撲滅される一助となればと、毎年、継続して国連WFPに寄付を行っています。引き続き国連WFPを支援していくと共に、今後、さらに支援の輪が広がることを願っております。

今号では、世界から飢餓を撲滅するための、国連WFPの活動についてご紹介いたします。

### WFPの活動

国連WFPは、飢餓をゼロにすることを使命とする国連唯一の食糧支援機関です。紛争や災害時の緊急支援、栄養状態の改善、学校給食の提供などを活動の柱に、毎年約80カ国で、女性や子どもなど8,000万人に食糧支援を行っています。



#### 世界の飢餓問題

国連が2017年9月に発表した最新の報告書によると、飢餓人口が8億1,500万人に達しました。

世界人口の9人に1人がいまだに毎晩空腹を抱えたまま眠りについており、3人に1人が何らかの栄養不良に苦しんでいるのが現状です。



### 活動の一例

#### 学校給食支援

途上国の学校で栄養価の高い給食を提供し、子どもたちの健全な発育を助けると同時に、就学率・出席率の向上を目指す活動をしています。



#### ～フィリピン学校給食支援～

フィリピン南部ミンダナオ島では40年以上武力衝突や紛争が絶えず、その影響で特にミンダナオ中部はフィリピンの中でも最も貧しく、子どもの栄養不良などが深刻な問題となっています。

そのような中、国連WFPは毎年平均10万人の児童に学校給食を提供しています。以前は空腹のため学校に来ることができなかった児童も徐々に元気に登校できるようになりました。

#### 緊急支援

紛争や自然災害などの緊急事態で深刻な食糧不足に直面した人びとに、命の糧となる食糧を届けます。



#### ～ロヒンギャ緊急支援～

ミャンマーのラカイン州北部で激しい衝突が発生し、多くの人が隣国バングラデシュに逃れています。国連WFPはこの人道危機を受け、バングラデシュに逃れてきた人々に対し食糧支援を行っています。

とりわけ、ミャンマーからの難民の深刻な栄養不良を改善するため、生後6カ月から5歳未満乳幼児および妊婦や授乳中の母親12万4,000人を対象に支援しています。

# 日本における活動

## イベント開催

国連WFPでは世界の子どもたちの飢餓の状況を多くの皆様に知っていただき、飢餓に対する支援の輪を広げるために様々なイベントを開催しております。



### ～ WFPウォーク・ザ・ワールド～

2018年5月13日横浜みなとみらいにて開催。一般参加者・企業参加者、合わせて参加数は4,707人。参加費からの募金は437万3,400円となりました。2018年5月27日にもウォーク・ザ・ワールド大阪を開催しました。



### ～ WFPチャリティーエッセイコンテスト～

毎年WFPエッセイコンテストを開催。昨年は「おなかいっぱい幸せごはん」をテーマに書かれた1万9,075作品の応募があり、228万9,000円が4社のご協力により寄付されました。

2018年も「おなか空いた、なに食べよ!」をテーマに開催を予定しています。

## 企業・団体との連携 – 寄付付き商品の販売 –

### ～レッドカップキャンペーン～

学校給食支援の輪を広げるため、給食を入れる容器として使っている赤いカップを目印に国連WFPが展開しているレッドカップキャンペーン。

企業がレッドカップマークを商品等に掲載し、その商品の売上げの一部を寄付する取り組みを実施しております。

最近では、SDGsの達成に向け、企業からの関心が高まってきています。



©Mayumi Rui

### ※SDGsとは？

「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals)は、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「質の高い教育をみんなに」など、2030年までに達成すべき17の国際社会の共通目標をまとめたものです。

国連WFPは、目標2「飢餓をゼロに」が他の目標達成の基盤にもなるとの考えのもと、パートナーシップを通じてその実現を目指しています。



### 結びに

食は人間の生命を支える欠かせないものです。食が足りて初めて、その国の自立・繁栄・平和が可能になると言っても過言ではありません。一人でも多くの人びとに食糧が届き、苦しい状況下に暮らす人びとが安心して、希望とともに生活を送れるように国連WFPは活動していきます。

[お問い合わせ]

国連WFP

☎0120-496-819 (通話料無料)

受付時間 9:00～18:00 (年中無休)

www.wfp.org/jp

## FINE FINETの送付先等の変更について

今回、ご送付いたしております「FINE FINET(ファイン・ファイネット)」の宛名や部数の変更等がございましたら、以下までご連絡ください。

## 【連絡先】

株式会社ファイネット 営業推進部

Tel.03-5643-3450

e-mail marketing-promotion@finet.co.jp

## ファイネットでは、「インターネット手順」への移行を推進しています

NTT東日本株式会社およびNTT西日本株式会社(以下、NTT東西)の公表内容

- ・公衆交換電話網(PSTN)からIP網への移行を2024年1月より開始
- ・同時にINSネット(デジタル通信モード)の提供を終了

これにより長い間EDI通信で利用されてきた「全銀協TCP/IP手順」などの従来手順が、ご利用いただけなくなる可能性があります。

さらに、NTT東西以外のISDNサービスをご利用の場合は、2023年1月から処理遅延が発生する可能性についても示唆されています。

これに伴い、弊社では「インターネット手順」への移行を、**2022年12月までに**実施いただくことを推奨しております。手順移行に関するご質問・ご相談等ございましたら、ヘルプデスクまでお問い合わせください。

## 【お問い合わせ先】

ファイネット ヘルプデスク



0120-091-094 (年中無休7:30~23:00)

## ご担当者情報を最新の状態に保つためにご協力をお願いいたします

弊社では、サービスに関する重要なお知らせをお届けするため、ご加入ユーザー様にはデータ交換に関する窓口の登録を行っていただいております。

お忙しいところお手数をお掛けしますが、手続きサイトより「担当者登録状況」をご確認のうえ、ご担当者の登録情報に変更がある場合は、お早めに手続きを行っていただきますようお願いいたします。

## 【お申込方法】

- ①弊社、手続きサイトからお申込ください。  
手続きサイトURL <https://www.finet.co.jp/fts/>
- ②手続きサイトのご利用方法がご不明の場合のお問い合わせ先

ファイネット ヘルプデスク



0120-091-094 (年中無休7:30~23:00)



株式会社ファイネット

FINE FINET (ファイン・ファイネット)

Vol.47 2018 Summer 2018年7月1日発行

[発行](株)ファイネット 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町13-2 兜町偕成ビル7階  
TEL.03-5643-3400 Fax.03-5643-3499 [編集・発行責任者] 小原 応孝

<https://www.finet.co.jp>